

第三十七條 出資ノ申込ニ對スル制當ニ付テハ設立委員ハ農林大臣ノ認可ヲ受クベシ

前項ノ認可申請書ニハ出資申込書ヲ添附スルコトヲ要ス

第三十八條 出資ノ引受ヲ爲シタル者ガ出資ノ第一回ノ拂込ヲ爲サザルトキハ設立委員ハ一定ノ期間内ニ其ノ拂込ヲ爲スベキ旨及其ノ期間内ニ之ヲ爲サザルトキハ其ノ權利ヲ失フベキ旨ヲ出資ノ引受ヲ爲シタル者ニ通知スルコトヲ得但シ其ノ期間ハ二週間ヲ下ルコトヲ得ズ

前項ノ通知アリタルニ拘ラズ出資ノ引受ヲ爲シタル者ガ其ノ期間内ニ拂込ヲ爲サザルトキハ其ノ權利ヲ失フ此ノ場合ニ於テハ設立委員ハ其ノ者ガ引受ケタル出資ニ付更ニ出資者ヲ募集スベシ

第三十九條 出資ノ第一回ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク各出資者ノ出資口數、拂込ミタル金額及其ノ拂込ノ年月日ヲ記載シタル書面竝ニ之ニ關スル證書類ヲ提出シ農林大臣ノ検査ヲ受クベシ

第四十條 前條ノ検査終リタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク出資者ノ總會ヲ召集シ農地開發營團ノ設立ニ關スル事項ヲ報告スベシ

第四十一條 總會ヲ召集スルニハ少クトモ一週間前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ各出資者ニ通知スルコトヲ要ス

第四十二條 總會終結シタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ農林大臣ニ届出ヅベシ

第四十三條 農地開發營團理事長設立委員ヨリ其ノ事務ノ引渡ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ農林大臣ニ届出ヅベシ

住宅營團法の公布並施行

昭和十六年四月七日より施行される、こととなつた住宅營團法及び住宅營團法施行令並に昭和十六年四月二十四日付官報所載の住宅營團定款を掲ぐれば以下の如くである。

住宅營團法施行期日 (昭和十六年四月四日) (勅令第三百九十九號)

住宅營團法ハ昭和十六年四月七日ヨリ之ヲ施行ス

住宅營團法 (昭和十六年三月七日) (法律第四十六號)

第一章 總則

第一條 住宅營團ハ勞務者其ノ他庶民ノ住宅ノ供給ヲ圖ルコトヲ目的トス

第二條 住宅營團ハ主タル事務所ヲ東京市ニ置ク
住宅營團ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ必要ノ地ニ從タル事務所ヲ設置スルコトヲ得

第三條 住宅營團ノ資本金ハ一億圓トス

第四條 政府ハ一億圓ヲ住宅營團ニ出資スベシ
政府ハ土地ヲ以テ出資ノ目的ト爲スコトヲ得

第五條 住宅營團ハ定款ヲ以テ左ノ事項ヲ規定スベシ

一 目的
二 名稱

三 事務所ノ所在地
四 資本金額及資産ニ關スル事項

五 役員及會議ニ關スル事項
六 業務及其ノ執行ニ關スル事項

七 住宅債券ノ發行ニ關スル事項

八 會計ニ關スル事項
九 公告ノ方法
十 定款變更ノ方法

第六條 住宅營團ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス
前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第七條 住宅營團ニハ所得稅、法人稅及營業稅ヲ課セズ
北海道、府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ住宅營團ノ事業、建物ノ建設若ハ取得又ハ土地ノ取得ニ對シテハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ但シ住宅營團ノ事業ニ對シテハ特別ノ事情ニ基キ内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第八條 住宅營團ニ付解散ヲ必要トスル事由發生シタル場合ニ於テ其ノ處置ニ關シテハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 住宅營團ニ非ザル者ハ住宅營團ナル名稱ヲ用フルコトヲ得ズ

第十條 民法第四十四條、第五十條、第五十四條、第五十五條及第五十七條並ニ非訟事件手續法第三十五條第一項ノ規定ハ住宅營團ニ之ヲ準用ス

第二章 役員

第十一條 住宅營團ニ理事長副理事長各一人、理事四人以上及監事二人以上ヲ置ク

理事長ハ住宅營團ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス
副理事長ハ定款ノ定ムル所ニ依リ住宅營團ヲ代表シ
理事長ヲ輔佐シテ住宅營團ノ業務ヲ掌理ス

副理事長ハ理事長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ
理事長缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

理事ハ定款ノ定ムル所ニ依リ住宅營團ヲ代表シ理事
長及副理事長ヲ輔佐シテ住宅營團ノ業務ヲ掌理ス

理事ハ定款ノ定ムル所ニ依リ理事長及副理事長共ニ
事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ理事長及副理事長
共ニ缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

監事ハ住宅營團ノ業務ヲ監査ス

第十二條 理事長、副理事長、理事及監事ハ主務大臣
之ヲ命ズ

十二年トス
理事長、副理事長及理事ノ任期ハ三年、監事ノ任期
ハ二年トス

第十三條 理事長、副理事長及理事ハ定款ノ定ムル所
ニ依リ従タル事務所ノ業務ニ關シ一切ノ裁判上又ハ
裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スル代理人ヲ選任スル
コトヲ得

第十四條 理事長、副理事長及理事ハ他ノ職業ニ從事
スルコトヲ得ズ但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキ
ハ此ノ限ニ在ラズ

第十五條 住宅營團ニ評議員若干人ヲ置キ主務大臣之
ヲ命ズ

評議員ハ業務經營ニ關スル重要ナル事項ニ付理事長
ノ諮問ニ應ジ必要アルトキハ之ニ對シ意見ヲ述ブル
コトヲ得

評議員ハ名譽職トシ其ノ任期ハ二年トス

第三章 業務

第十六條 住宅營團ハ左ノ業務ヲ行フ

一 住宅ノ建設及經營

二 住宅ノ建設及經營ノ受託

三 一團地ノ住宅ノ建設又ハ經營ノ場合ニ於ケル水
道、乗合自動車、市場、食堂、浴場、保育所、授
産場、集會所其ノ他ノ施設ノ建設及經營

四 住宅ノ建設ノ爲ニスル資金ノ貸付

五 住宅ノ賣買及貸借ノ仲介

六 前各號ノ業務ニ附帶スル事業

第十七條 住宅營團ハ其ノ住宅及前條第三號ノ施設ノ
用ニ充ツル爲ニ必要ナル土地又ハ土地ニ關スル所有權
以外ノ權利ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル收用又ハ使用ニ關シテハ土地收用
法ヲ適用ス

第一項ノ規定ニ依リ收用又ハ使用シタル土地又ハ土
地ニ關スル所有權以外ノ權利ノ處分及管理ニ關シ必
要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 北海道、府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキ
モノノ所有ニ屬スル土地ハ隨意契約ニ依リ住宅營團
ニ之ヲ讓渡又ハ貸付スルコトヲ得

第十九條 住宅營團ハ拂込資本金額ノ十倍ヲ限り住宅
債券ヲ發行スルコトヲ得

第二十條 住宅債券ハ額面金額五十圓以上トシ無記名
利札附トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名
ト爲スコトヲ得

住宅債券ハ割引ノ方法ヲ以テ之ヲ發行スルコトヲ得

第二十一條 住宅營團ハ住宅債券借換ノ爲ニ時第十九
條ノ制限ニ依ラズ住宅債券ヲ發行スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ住宅債券ヲ發行シタルトキハ發行
後一月以内ニ其ノ發行額面金額ニ相當スル舊住宅債
券ヲ償還スベシ

第二十二條 政府ハ住宅債券ノ元本ノ償還及利息ノ支
拂ニ付保證スルコトヲ得

第二十三條 住宅債券ハ賣出ノ方法ヲ以テ之ヲ發行ス
ルコトヲ得

第二十四條 住宅營團ニ於テ住宅債券ヲ發行セントス
ルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第二十五條 住宅債券ノ消滅時効ハ元金ニ在リテ八十
五年、利子ニ在リテ五十年ヲ以テ完成ス

第二十六條 住宅債券ノ所有者ハ住宅營團ノ財産ニ付
他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債券ノ辨濟ヲ受クル權利
ヲ有ス

前項ノ規定ハ民法上ノ一般ノ先取特權ノ行使ヲ妨グ
ルコトヲ得ズ

第二十七條 所得稅法及有價證券移轉稅法中國債以外
ノ公債ニ關スル規定ハ住宅債券ニ之ヲ準用ス

第二十八條 本章ニ規定スルモノヲ除クノ外住宅債券
ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五章 會計

第二十九條 住宅營團ノ事業年度ハ毎年四月ヨリ翌年
三月迄トス

第三十條 住宅營團ハ每事業年度ニ於ケル剩餘金中ヨ
リ勅令ヲ以テ定ムル積立金ヲ控除シテ剩餘額アルト
キハ剩餘金ノ配當ヲ爲スコトヲ得但シ拂込ミタル出
資額ニ對シ年三分五厘ノ割合ヲ超ユルコトヲ得ズ

第三十一條 住宅營團ハ左ノ方法ニ依ルノ外業務上ノ
餘裕金ヲ運用スルコトヲ得ズ

一 國債、地方債又ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル有
價證券ノ取得ヲ爲スコト

二 大藏省預金部若ハ銀行ヘノ預金又ハ郵便貯金ト

爲スコト

第七章 罰則

第三十二條 住宅營團ハ設立ノ時及毎事業年度ノ初ニ於テ財産目録、貸借對照表及損益計算書ヲ作成シ定款ト共ニ之ヲ各事務所ニ備置クコトヲ要ス
債權者ハ業務時間内何時ニテモ前項ニ掲グル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第六章 監督

第三十三條 住宅營團ハ主務大臣之ヲ監督ス

第三十四條 住宅營團ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ剩餘金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ズ

第三十五條 住宅營團ハ毎事業年度ノ初ニ於テ事業計畫ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第三十六條 主務大臣ハ住宅營團ニ對シ業務及財産ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシメ、検査ヲ爲シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第三十七條 主務大臣ハ特ニ住宅營團監督官ヲ置キ住宅營團ノ業務ヲ監視セシム

住宅營團監督官ハ何時ニテモ住宅營團ノ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

住宅營團監督官ハ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ住宅營團ニ命ジテ業務及財産ノ狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

住宅營團監督官ハ住宅營團ノ諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第三十八條 役員ガ法令、定款若ハ主務大臣ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ之ヲ解任スルコトヲ得

第三十九條 左ノ場合ニ於テハ住宅營團ノ理事長、副理事長、理事又ハ監事ヲ千圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受クベキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケザルトキ

二 本法ニ規定セザル業務ヲ營ミタルトキ

三 第十九條又ハ第二十一條第二項ノ規定ニ違反シ住宅債券ノ發行ヲ爲シ又ハ償還ヲ爲サザルトキ

四 第三十一條ノ規定ニ違反シ業務上ノ餘裕金ヲ運用シタルトキ

五 主務大臣ノ監督上ノ命令又ハ處分ニ違反シタルトキ

六 第三十七條第二項又ハ第三項ノ規定ニ依ル住宅營團監督官ノ検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ命ズル報告ヲ爲サザルトキ

第四十條 左ノ場合ニ於テハ住宅營團ノ理事長、副理事長、理事又ハ監事ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法ニ基キテ發スル勅令ニ違反シ登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ

二 第三十二條ノ規定ニ違反シ書類ヲ備置カザルトキ、其ノ書類ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ又ハ正當ノ事由ナクシテ其ノ閱覽ヲ拒ミタルトキ

第四十一條 第九條ノ規定ニ違反シ住宅營團ナル名稱ヲ用ヒタル者ハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

附 則

第四十二條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十三條 主務大臣ハ設立委員ヲ命ジ住宅營團ノ設立ニ關スル事務ヲ處理セシム

第四十四條 設立委員ハ定款ヲ作成シ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第四十五條 定款ニ付主務大臣ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク出資ノ第一回ノ拂込ヲ稟請スベシ

第四十六條 出資ノ第一回ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク其ノ事務ヲ住宅營團理事長ニ引繼グベシ

第四十七條 住宅營團ハ主タル事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スニ因リテ成立ス

第四十八條 登録税法中左ノ通改正ス

第十九條第七號中「蠶絲共同施設組合」ノ上ニ「住宅營團」ヲ、「蠶絲業法」ノ上ニ「住宅營團法」ヲ加フ

同條第十八號中「庶民金庫」ノ下ニ「又ハ住宅營團」ヲ加ヘ「業務」ヲ「事務所」ニ改ム

同條ニ左ノ一號ヲ加フ

十九 住宅營團カ住宅營團法第十六條第一號、第三號又ハ第四號ノ業務ヲ爲ニスル建物又ハ土地ノ權利ノ取得又ハ所有權ノ保存ノ登記

第四十九條 印紙税法中左ノ通改正ス

第五條第七號ノ前ニ左ノ一號ヲ加フ

六ノ四 住宅營團ノ業務ニ關スル證書帳簿及住宅債券

〔參照〕

第十九條 〇登録税法抄錄 (明治二十九年三月二十八日法律第二十號)

二號ノ二、第八號乃至第九號ノ四、第十一號、第十二號及第十四號乃至第十七號ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依ル

七 恩給金庫、産業組合、産業組合聯合會、産業組

合中央會、庶民金庫、蠶絲共同施設組合、漁業組

合、漁業組合聯合會、商工組合中央金庫、工業組

合、工業組合聯合會、工業小組合、工業組合中央

會、商業組合、商業組合聯合會、商業小組合、商

業組合中央會、貿易組合、貿易組合聯合會、貿易

組合中央會、造船組合、造船組合聯合會、海運組

合、海運組合聯合會、肥料製業組合、自動車運

送事業組合又ハ自動車運送事業組合聯合會ニ付恩

給金庫法、産業組合法、庶民金庫法、蠶絲業法、

漁業法、商工組合中央金庫法、工業組合法、商業

組合法、貿易組合法、造船事業法、海運組合法、

重要肥料業統制法又ハ自動車交通事業法ニ基キテ

爲ス登記

十八 庶民金庫ノ業務ノ用ニ供スル不動産ニ關スル

登記

第五條 左ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ印紙稅ヲ納

ムルコトヲ要セス

(左記略ス)

住宅營團法施行令 (昭和十六年四月四日 勅令第四百號)

第一章 登記

第一條 住宅營團ノ設立ノ登記ハ出資ノ第一回ノ拂込

アリタル日ヨリ二週間以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

設立ノ登記ニハ左ノ事項ヲ掲グルコトヲ要ス

一 目的

二 名稱

三 事務所

四 資本金額及拂込資本金額

五 理事長、副理事長、理事及監事ノ氏名及住所

六 副理事長又ハ理事ノ代表權ニ制限ヲ加ヘタルト

キハ其ノ制限

七 公告ノ方法

住宅營團ハ設立ノ登記ヲ爲シタル後一週間以内ニ從

タル事務所ノ所在地ニ於テ前項ニ掲グル事項ヲ登記

スルコトヲ要ス

第二條 住宅營團ノ成立後從タル事務所ヲ設ケタルト

キハ主タル事務所ノ所在地ニ於テハ二週間以内ニ從

タル事務所ヲ設ケタルコトヲ登記シ其ノ從タル事務

所ノ所在地ニ於テハ三週間以内ニ前條第二項ニ掲グ

ル事項ヲ登記シ他ノ從タル事務所ノ所在地ニ於テハ

同期間内ニ其ノ從タル事務所ヲ設ケタルコトヲ登記

スルコトヲ要ス

主タル事務所又ハ從タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル

登記所ノ管轄區域内ニ於テ新ニ從タル事務所ヲ設ケ

タルトキハ其ノ從タル事務所ヲ設ケタルコトヲ登記

スルヲ以テ足ル

第三條 住宅營團ガ主タル事務所ヲ移轉シタルトキハ

二週間以内ニ移轉ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

住宅營團ガ從タル事務所ヲ移轉シタルトキハ舊所在

地ニ於テハ三週間以内ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地

ニ於テハ四週間以内ニ第一條第二項ニ掲グル事項ヲ

登記スルコトヲ要ス但シ同一ノ登記所ノ管轄區域内

ニ於テ從タル事務所ヲ移轉シタルトキハ其ノ移轉ノ

登記ヲ爲スヲ以テ足ル

タル事務所ノ所在地ニ於テハ三週間以内ニ變更ノ登

記ヲ爲スコトヲ要ス

第五條 住宅營團法第十三條ノ代理人ヲ選任シタルト

キハ二週間以内ニ之ヲ置キタル事務所ノ所在地ニ於

テ代理人ノ氏名、住所及代理人ヲ置キタル事務所並

ニ代理人ノ代理權ニ制限ヲ加ヘタルトキハ其ノ制限

ヲ登記スルコトヲ要ス登記シタル事項ノ變更及代理

人ノ代理權ノ消滅ニ付亦同ジ

第六條 住宅債券ヲ發行シタル場合ニ於テ第二十二條

ノ拂込アリタルトキ又ハ第二十四條ノ賣出期間滿了

シタルトキハ主タル事務所ノ所在地ニ於テハ二週

間、從タル事務所ノ所在地ニ於テハ三週間以内ニ住

宅債券ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ登記ニハ第十九條第二項第二號乃至第六號ニ

掲グル事項ヲ掲グルコトヲ要ス

第四條ノ規定ハ第一項ノ登記ニ之ヲ準用ス

第七條 登記スベキ事項ニシテ厚生大臣ノ認可ヲ要ス

ルモノハ其ノ認可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間

ヲ起算ス

第八條 登記シタル事項ハ裁判所ニ於テ遲滞ナク之ヲ

公告スルコトヲ要ス

第九條 住宅營團ノ登記ニ付テハ其ノ事務所所在地ノ

區裁判所ヲ以テ管轄登記所トス

各登記所ニ住宅營團登記簿ヲ備フ

第十條 設立ノ登記ハ理事長、副理事長、理事及監事

ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

前項ノ場合ヲ除クノ外本令ニ依ル登記ハ理事長ノ申

ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面並ニ理事長、副理事長、理事及監事ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第十二條 住宅營團法第十三條ノ代理人ノ選任ノ登記ノ申請書ニハ代理人ノ選任ヲ證スル書面及代理人ノ代理權ニ制限ヲ加ヘタルトキハ其ノ制限ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第十三條 住宅債券ノ登記ノ申請書ニハ住宅債券ノ引受ヲ證スル書面、住宅債券申込證及各住宅債券ニ付第二十二條ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面又ハ第二十四條ノ賣出期間内ニ於テ賣上ゲタル住宅債券ノ總額ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第十四條 事務所ノ新設又ハ事務所ノ移轉其ノ他第一條第二項ニ掲グル事項ノ變更ノ登記ノ申請書ニハ事務所ノ新設又ハ登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第十五條 前條ノ規定ハ第五條ノ規定ニ依リ登記シタル事項ノ變更及住宅及住宅營團法第十三條ノ代理人ノ代理權ノ消滅並ニ住宅債券ニ關スル登記事項ノ變更ノ登記ニ之ヲ準用ス

第十六條 非訟事件手續法第四百二十二條乃至第五百一一條ノ六及第五百四十四條乃至第五百五十七條ノ規定ハ本令ニ依ル登記ニ之ヲ準用ス

第二章 收用又ハ使用シタル土地又ハ土地ニ關スル所有權以外ノ權利ノ處分及管理

第十七條 住宅營團ハ住宅營團法第十七條第一項ノ規定ニ依リ收用又ハ使用シタル土地ヲ其ノ土地ノ上ニ存スル住宅又ハ施設ト共ニスルニ非ザレバ讓渡又ハ

貸付スルコトヲ得ズ但シ厚生大臣ノ認可ヲ受ケタルトキ又ハ收用シタル土地ニ付其ノ收用ノ時期ヨリ二十年ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

住宅營團法第十七條第一項ノ規定ニ依リ收用シタル土地ヲ其ノ土地ノ上ニ存スル住宅又ハ施設ト共ニ住宅營團ヨリ讓渡スル場合ニ於テハ其ノ讓渡ハ土地收用法第六十六條ノ規定ノ適用ニ付其ノ土地ヲ不用ニ歸セシムルモノニ非ザルモノトス其ノ讓渡ケタル者ガ住宅營團ニ其ノ土地ヲ讓渡スル場合ニ於テ其ノ讓渡ニ付亦同ジ

第十八條 前條ノ規定ハ土地ニ關スル所有權以外ノ權利ニシテ住宅營團法第十七條第一項ノ規定ニ依リ收用又ハ使用シタルモノニ之ヲ準用ス

第三章 住宅債券

第十九條 住宅債券ノ募集ニ應ゼントスル者ハ住宅債券申込證ニ通ニ其ノ引受クベキ住宅債券ノ數及住所ヲ記載シ之ニ署名又ハ記名捺印スルコトヲ要ス

住宅債券申込證ハ理事長之ヲ作成シ之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 住宅營團ノ名稱
- 二 住宅債券ノ總額
- 三 各住宅債券ノ金額
- 四 住宅債券ノ利率
- 五 住宅債券償還ノ方法及期限
- 六 利息支拂ノ方法及期限
- 七 住宅債券發行ノ價額又ハ最低價格
- 八 住宅營團ノ資本金額及拂込資本金額
- 九 舊住宅債券借換ノ爲住宅營團法第十九條ノ制限ニ依ラズ住宅債券ヲ發行スルトキハ其ノ旨

十 前ニ住宅債券ヲ發行シタルトキハ其ノ償還ヲ了ヘザル總額

住宅債券發行ノ最低價額ヲ定メタル場合ニ於テハ應募者ハ住宅債券申込證ニ應募價額ヲ記載スルコトヲ要ス

第二十條 前條ノ規定ハ契約ニ依リ住宅債券ノ總額ヲ引受クル場合ニハ之ヲ適用セズ住宅債券募集ノ委託ヲ受ケタル會社ガ自ら住宅債券ノ一部ヲ引受クル場合ニ於テ其ノ一部ニ付亦同ジ

第二十一條 住宅債券ノ應募總額ガ住宅債券申込證ニ記載シタル住宅債券ノ總額ニ達セザルトキト雖モ住宅債券ヲ成立セシムル旨ヲ住宅債券申込證ニ記載シタルトキハ其ノ應募總額ヲ以テ住宅債券ノ總額トス

第二十二條 住宅債券ノ募集ガ完了シタルトキハ理事長ハ遲滞ナク各住宅債券ニ付其ノ金額ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第二十三條 住宅債券募集ノ委託ヲ受ケタル會社ハ自己ノ名ヲ以テ住宅營團ノ爲ニ第十九條第二項及前條ニ定ムル行爲ヲ爲スコトヲ得

住宅債券募集ノ委託ヲ受ケタル會社ニ以上アルトキハ前項ノ行爲ハ共同シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十四條 賣出ノ方法ニ依リ住宅債券ヲ發行セントスルトキハ理事長ハ左ノ事項ヲ公告スルコトヲ要ス

- 一 賣出期間
- 二 住宅債券賣出ノ價額
- 三 第十九條第二項第一號乃至第六號及第八號乃至第十號ニ掲グル事項
- 四 第二十五條ニ規定スル事項

第二十五條 賣出期間内ニ賣上ゲタル住宅債券ノ總額

ガ前條ノ規定ニ依リ公告シタル住宅債券ノ總額ニ達セザルトキハ其ノ賣上總額ヲ以テ住宅債券ノ總額トス

第二十六條 住宅債券ハ全額ノ拂込アリタル後ニ非ザレバ之ガ證券ノ發行ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十七條 住宅債券ニハ第十九條第二項第一號乃至第六號ニ掲グル事項及證券番號ヲ記載シ理事長之ニ署名又ハ記名捺印スルコトヲ要ス

賣出ノ方法ニ依リ發行スル住宅債券ニハ第十九條第二項第二號ニ掲グル事項ヲ記載スルコトヲ要セズ

第二十八條 理事長ハ主タル事務所ニ住宅債券原簿ヲ備置タコトヲ要ス

債權者ハ業務時間内何時ニテモ住宅債券原簿ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第二十九條 住宅債券原簿ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 住宅債券ノ數及番號

二 住宅債券ノ證券發行ノ年月日

三 第十九條第二項第二號乃至第六號ニ掲グル事項

住宅債券ヲ記名ト爲シタルトキハ前項ニ掲グル事項ノ外其ノ住宅債券ノ所有者ノ氏名及住所並ニ取得ノ年月日ヲ住宅債券原簿ニ記載スルコトヲ要ス

第三十條 記名住宅債券ノ移轉ハ取得者ノ氏名及住所ヲ住宅債券原簿ニ記載シ且其ノ氏名ヲ證券ニ記載スルニ非ザレバ之ヲ以テ住宅營團其ノ他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

記名住宅債券ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタルトキハ質權者ノ氏名及住所ヲ住宅債券原簿ニ記載スルニ非ザレバ之ヲ以テ住宅營團其ノ他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

トヲ得ズ

第三十一條 住宅債券應募者ニ對スル通知又ハ催告ハ住宅債券申込證ニ記載シタル其ノ者ノ住所ニ、其ノ者ガ別ニ其ノ住所ヲ住宅營團ニ通知シタルトキハ其ノ住所ニ宛ツルヲ以テ足ル未ダ住宅債券ノ證券ノ發行ヲ爲スニ至ラザル場合ニ於テ住宅債券權利者ニ對スル通知又ハ催告ニ付亦同ジ

記名住宅債券ノ所有者ニ對スル通知又ハ催告ハ住宅債券原簿ニ記載シタル其ノ者ノ住所ニ、其ノ者ガ別ニ其ノ住所ヲ住宅營團ニ通知シタルトキハ其ノ住所ニ宛ツルヲ以テ足ル

前二項ノ通知又ハ催告ハ通常其ノ到達スベカリシ時ニ到達シタルモノト看做ス

無記名住宅債券ノ所有者ニ對スル通知又ハ催告ハ公告ノ方法ニ依ルコトヲ得

第三十二條 無記名住宅債券ヲ償還スル場合ニ於テ欠缺セル利札アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ償還額ヨリ控除ス但シ既に支拂期ノ到來シタル利札ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ利札ノ所持人ハ何時ニテモ之ト引換ニ控除金額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得

第四章 積立金

第三十三條 住宅營團ハ每事業年度ニ於ケル剩餘金中ヨリ左ノ積立金ヲ積立ツルコトヲ要ス

一 普通積立金

二 特別積立金

三 職員退職給與積立金

第三十四條 普通積立金ハ資本ノ缺損ノ填補ニ充ツ

普通積立金ノ積立ハ每事業年度ニ於テ剩餘金ノ五分

ノ一ヲ下ルコトヲ得ズ但シ普通積立金ノ額ガ資本ノ四分ノ一ノ額ニ達シタルトキハ十分ノ一迄下ルコトヲ得

第三十五條 特別積立金ハ災害等ニ因リテ生ズルコトアルベキ特別ノ損失ノ填補ニ充ツ

特別積立金ノ積立ハ每事業年度ニ於テ剩餘金ノ十分ノ一ヲ下ルコトヲ得ズ

第三十六條 職員退職給與積立金ハ之ヲ職員退職給與金ノ資ニ充ツ

職員退職給與積立金ノ積立ハ每事業年度ニ於テ剩餘金ノ二十分ノ一ヲ下ルコトヲ得ズ

第三十七條 特別積立金及職員退職給與積立金ハ評議員ニ諮問シテ之ヲ一時他ノ目的ニ使用スルコトヲ得

第五章 雜則

第三十八條 厚生大臣ハ住宅營團法第三十五條ノ規定ニ依リ事業計畫ニ付認可ヲ爲サントスル場合ニ於テ其ノ事業ガ都市計畫ニ影響スルコトアルベシト認メラルルトキハ内務大臣ニ協議スベシ

附則

本令ハ住宅營團法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

住宅營團定款

第一章 總則

第一條 本營團ハ住宅營團法ニ依リテ設立シ住宅營團ト稱ス

第二條 本營團ハ勞務者其ノ他庶民ノ住宅ノ供給ヲ圖ルコトヲ目的トス

第三條 本營團ノ主タル事務所ハ之ヲ東京市ニ置ク本營團ノ從タル事務所ハ之ヲ東京市、大阪市、名古屋

屋市、福岡市及仙臺市ニ置ク

本營團ハ業務ノ都合ニ依リ便宜ノ地ニ出張所ヲ置クコトヲ得

第四條 本營團ノ公告ハ官報ニ掲載シテ之ヲ爲ス

第二章 資本金

第五條 本營團ノ資本金ハ一億圓トス

第六條 政府ハ一億圓ヲ本營團ニ出資スルモノトス

政府ハ土地ヲ以テ出資ノ目的ト爲スコトヲ得ルモノトス

第三章 役員、職員及會議

第七條 本營團ニ理事長副理事長各一人、理事四人以上及監事二人以上ヲ置ク

第八條 理事長ハ本營團ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス

副理事長ハ理事長ノ定ムル所ニ依リ本營團ヲ代表シ

理事長ヲ輔佐シテ本營團ノ業務ヲ掌理ス

副理事長ハ理事長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ

理事長缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

理事ハ理事長ノ定ムル所ニ依リ本營團ヲ代表シ理事

長及副理事長ヲ輔佐シテ本營團ノ業務ヲ掌理ス

理事ハ理事長ノ豫メ定メタル順位ニ依リ理事長及副

理事長共ニ事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ理事長

及副理事長共ニ缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

監事ハ本營團ノ業務ヲ監査ス

第九條 理事長、副理事長、理事及監事ハ厚生大臣之

ヲ命ズルモノトス

理事長、副理事長及理事ノ任期ハ三年、監事ノ任期

ハ二年トス

第十條 理事長、副理事長、理事及監事ノ報酬及手當

ノ額ハ厚生大臣ノ認可ヲ受ケ理事長之ヲ定ム

第十一條 理事長、副理事長及理事ハ從タル事務所ノ

業務ニ關シ必要ト認ムルトキハ一切ノ裁判上文ハ裁

判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スル代理人(支配人)ヲ選

任スルコトヲ得

第十二條 理事長、副理事長及理事ハ他ノ職業ニ從事

スルコトヲ得ズ但シ厚生大臣ノ認可ヲ受ケタルトキ

ハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條 本營團ニ評議員三十人以内ヲ置キ厚生大臣

之ヲ命ズルモノトス

評議員ハ名譽職トシ其ノ任期ハ二年トス

評議員ハ業務經營ニ關スル重要ナル事項ニ付理事長

ノ諮問ニ應ジ必要アルトキハ之ニ對シ意見ヲ述ブル

コトヲ得

左ノ事項ハ之ヲ評議員ニ諮問スルモノトス

一 事業計畫ノ設定及其ノ重要ナル變更

二 職制並ニ職員及業務ノ執行其ノ他ニ關スル重要

ナル規程ノ制定及改廢

三 住宅債券ノ發行及償還ニ關スル事項

四 剩餘金ノ處分

五 其ノ他本營團ノ業務經營ニ關スル重要ナル事項

ニシテ理事長ニ於テ必要ト認メタルモノ

理事長必要ト認ムルトキハ評議員會議ヲ開クコトヲ

得

第十四條 本營團ニ顧問及參與ヲ置クコトヲ得

顧問及參與ハ厚生大臣ノ認可ヲ受ケ理事長之ヲ委嘱

ス

顧問ハ業務經營ニ關スル特ニ重要ナル事項ニ付理事

長ノ諮問ニ應ズ

參與ハ業務經營ニ關スル専門ノ事項ニ付理事長ノ諮

問ニ應ズ

第十五條 本營團ノ職制並ニ職員ノ任免、給與、分限

及執務ニ關シ必要ナル事項ハ理事長之ヲ定ム

第四章 業務及其ノ執行

第十六條 本營團ハ左ノ業務ヲ行フ

一 住宅ノ建設及經營

二 住宅ノ建設及經營ノ受託

三 一團地ノ住宅ノ建設又ハ經營ノ場合ニ於ケル水

道、乗合自動車、市場、食堂、浴場、保育所、授

産場、集會所其ノ他ノ施設ノ建設及經營

四 住宅ノ建設ノ爲ニスル資金ノ貸付

五 住宅ノ賣買及貸借ノ仲介

六 前各號ノ業務ニ附帶スル事業

第十七條 本營團ハ每事業年度ノ初ニ於テ事業計畫ヲ

定メ厚生大臣ノ認可ヲ受クルモノトス之ヲ變更セン

トスルトキ亦同ジ

第十八條 本營團ノ業務ノ執行ニ關シ必要ナル事項ハ

理事長之ヲ定ム

第五章 住宅債券

第十九條 本營團ハ拂込資本金額ノ十倍ヲ限リ厚生大

臣ノ認可ヲ受ケ住宅債券ヲ發行スルコトヲ得

第二十條 住宅債券ハ額面金額五十圓以上トシ無記名

利札附トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名

ト爲スコトヲ得

住宅債券ハ割引ノ方法ヲ以テ之ヲ發行スルコトヲ得

第二十一條 本營團ハ住宅債券借換ノ爲一時第十九條

ノ制限ニ依ラズ住宅債券ヲ發行スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ住宅債券ヲ發行シタルトキハ發行

後一月以内ニ其ノ發行額面金額ニ相當スル舊住宅債

券ヲ償還スルモノトス

第二十二條 住宅債券ハ賣出ノ方法ヲ以テ之ヲ發行スルコトヲ得

第二十三條 住宅債券ノ償還期限ハ其ノ發行後二十五年内トス

第二十四條 無記名住宅債券ヲ償還スル場合ニ於テ欠缺セル利札アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ償還額ヨリ控除ス但シ既ニ支拂期ノ到來シタル利札ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ利札ノ所持人ノ請求アリタルトキハ之ト引換ニ控除金額ノ支拂ヲ爲スモノトス

第二十五條 住宅債券ノ買入銷却ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ買入價格ハ券面額ト買入當日迄ノ經過利子額トノ合計額ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二十六條 賣出ノ方法ニ依ル住宅債券ノ發行又ハ住宅債券ノ償還ニ關シ必要ナル事項ハ豫メ之ヲ公告ス

第二十七條 無記名住宅債券ヲ記名ト爲シ又ハ記名住宅債券ヲ無記名ト爲サントスルトキハ其ノ請求書ニ債券ヲ添ヘ本營團ニ提出スルコトヲ要ス

無記名住宅債券ヲ記名ト爲スベキ請求アリタルトキハ本營團ハ之ニ記名紙ヲ貼附シ其ノ手續ヲ了シタル上理事長證印シテ請求者ニ之ヲ還付ス

記名住宅債券ヲ無記名ト爲スベキ請求アリタルトキハ本營團ハ之ト引換ニ同一番號ノ無記名ノ新債券ヲ交付ス

第二十八條 記名住宅債券ノ名義書換ヲ爲サントスルトキハ讓渡人及讓受人雙方ノ署名又ハ記名捺印シタル請求書ニ債券ヲ添ヘ本營團ニ提出スルコトヲ要ス

相續、遺贈、讓賣等ニ因リ記名住宅債券ヲ取得シタル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依ルコト能ハザルトキハ其ノ取得ヲ證スル書面ヲ添ヘ名義書換ヲ本營團ニ請求スルコトヲ要ス

前條第二項ノ規定ハ前二項ノ名義書換ニ之ヲ準用ス

第二十九條 無記名住宅債券又ハ其ノ利札ヲ滅失若ハ紛失シタル場合又ハ之ヲ盜取セラレタル場合ニ於テハ公示催告手續ニ依リ除權判決ヲ受ケタル後ニ非ザレバ其ノ代債券又ハ代利札ヲ交付セズ

第三十條 記名住宅債券災害ニ因リ滅失シタルトキハ所有者ハ其ノ事由、券面金額及番號ヲ詳記シ二人以上ノ保證人ヲ立テ本營團ニ届出デ代債券ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第三十一條 記名住宅債券ヲ紛失シタルトキ又ハ之ヲ盜取セラレタルトキハ所有者ハ其ノ事由、券面金額及番號ヲ詳記シ本營團ニ届出デ代債券ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタルトキハ本營團ハ其ノ費用ヲ以テ其ノ旨ヲ公告シ一月以内ニ其ノ債券ヲ發見シタル旨ノ届出ナキトキハ二人以上ノ保證人ヲ立テシメ代債券ヲ交付ス

第三十二條 記名住宅債券ノ滅失、紛失又ハ盜取ノ届出ニ關シ異議ノ申立ヲ爲ス者アルトキハ本營團ハ管轄裁判所ノ判決確定ノ後ニ非ザレバ代債券ヲ交付セズ

第三十三條 住宅債券ヲ汚染又ハ毀損シタルトキハ所有者ハ其ノ事由ヲ詳記シ其ノ債券ヲ添ヘ本營團ニ提出シ代債券ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタルトキハ本營團ハ其ノ債券ヲ審査シ眞正ナルコトヲ認ムルモノニ限り代債券ヲ交付ス其ノ依ル

第三十四條 記名住宅債券ヲ無記名ニ若ハ無記名住宅債券ヲ記名ニ書換ヲ爲ス場合又ハ住宅債券若ハ其ノ利札ヲ滅失、紛失、汚染若ハ毀損シタル等ノ爲代債券又ハ代利札ヲ交付スル場合ニ於テハ請求者ヨリ一通ニ付三十錢ノ手数料ヲ徴收ス

記名住宅債券ノ名義書換ヲ爲ス場合ニ於テハ請求者ヨリ債券一通ニ付十五錢ノ手数料ヲ徴收ス

第三十五條 償還、買入銷却又ハ交換ニ因ル本營團ニ回収シタル住宅債券ハ其ノ要部ニ付消印ヲ捺シ又ハ打抜ヲ施シ時効期間内之ヲ保管ス

第三十六條 住宅債券又ハ其ノ利札ニ付消滅時効ノ完成セントスルモノアルトキハ本營團ハ時効期間満了ノ時ヨリ少クトモ一月以前ニ其ノ旨ヲ公告シ且知レタル債權者ニハ各別ニ之ヲ通知ス

第三十七條 住宅債券又ハ其ノ利札ニ付消滅時効ノ完成シタルモノアルトキハ本營團ハ住宅債券原簿ニ時効免責ノ記入ヲ爲シ且其ノ住宅債券又ハ利札ノ種類、記號、番號、枚數及金額ヲ公告ス

第六章 會計

第三十八條 本營團ノ事業年度ハ毎年四月ヨリ翌年三月迄トス

第三十九條 本營團ハ每事業年度ニ於ケル剩餘金中ヨリ左ノ積立金ヲ積立ツルモノトス

一 普通積立金

二 特別積立金

三 職員退職給與積立金

第四十條 普通積立金ハ資本ノ缺損ノ填補ニ充ツ

普通積立金ノ積立ハ毎事業年度ニ於テ剩餘金ノ五分

ノ一ヲ下ルコトヲ得ズ但シ普通積立金ノ額ガ資本ノ四

分ノ一ノ額ニ達シタルトキハ十分ノ一迄下ルコトヲ得

第四十一條 特別積立金ハ災害等ニ因リテ生ズルコト

アルベキ特別ノ損失ノ填補ニ充ツ

特別積立金ノ積立ハ毎事業年度ニ於テ剩餘金ノ十分

ノ一ヲ下ルコトヲ得ズ

第四十二條 職員退職給與積立金ハ之ヲ職員退職給與

金ノ資ニ充ツ

職員退職給與積立金ノ積立ハ毎事業年度ニ於テ剩餘

金ノ二十分ノ一ヲ下ルコトヲ得ズ

第四十三條 特別積立金及職員退職給與積立金ハ評議

員ニ諮問シテ之ヲ一時他ノ目的ニ使用スルコトヲ得

第四十四條 本營團ハ第三十九條ノ規定ニ依ル積立金

ノ外必要ニ應ジ目的ヲ定メテ積立ヲ爲スコトヲ得

第四十五條 剩餘金中ヨリ第三十九條及前條ノ規定ニ

依ル積立金ヲ控除シタル殘額ハ之ヲ配當金及繰越金

ト爲スモノトス

第四十六條 剩餘金ノ配當ハ拂込ミタル出資額ニ對シ

年三分五厘ノ割合ヲ超ユルコトヲ得ザルモノトス

第四十七條 剩餘金ノ處分ハ厚生大臣ノ認可ヲ受ケテ

之ヲ行フ

第四十八條 本營團ハ左ノ方法ニ依ルノ外業務上ノ餘

裕金ヲ運用スルコトヲ得ズ

一 感債、地方債又ハ厚生大臣ノ認可ヲ受ケタル有

價證券ノ取得ヲ爲スコト

二 大藏省預金部若ハ銀行ヘノ預金又ハ郵便貯金ト

爲スコト

第四十九條 理事長ハ設立ノ時及毎事業年度ノ初ニ於

テ財産目録、貸借對照表、損益計算書及業務報告書

ヲ作成シ定款ト共ニ之ヲ各事務所ニ備置クモノトス

債權者ハ業務時間内何時ニテモ前項ニ掲グル書類ノ

閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第七章 定款ノ變更

第五十條 本定款ヲ變更セントスルトキハ評議員總數

ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得タル上厚生大臣ノ認可ヲ

受クルモノトス

興亞院官制中改正並興亞鍊成所規

程ノ公布

興亞鍊成所ノ設立に伴フ興亞院官制中ノ一部改正は

昭和十六年四月二十一日付官報を以て公布を見たが之

を掲ぐれば次の如くである。

興亞院官制中改正 (昭和十六年四月十九日 勅令第四百六十三號)

興亞院官制中左ノ通改正ス

第二十一條 興亞院ニ興亞鍊成所ヲ置キ支那ニ於ケル

政治、經濟又ハ文化ニ關スル業務ニ従事スル者ニ對

シ必要ナル鍊成ヲ施ス

第二十二條 興亞鍊成所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

鍊成官

鍊成官補

屬

所長ハ鍊成官ヲ以テ之ニ充ツ

專任八人 奏任(内一人ヲ勅任ト)

專任四人 判任

專任二人 判任

第二十三條 興亞鍊成所長ハ總裁ノ指揮監督ヲ承ケ所

務ヲ掌理ス

第二十四條 興亞鍊成所鍊成官ハ上官ノ命ヲ承ケ鍊成

ヲ掌ル

第二十五條 興亞鍊成所鍊成官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ

鍊成ニ従事ス

第二十六條 興亞鍊成所屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ

従事ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

興亞鍊成所規程 (昭和十六年四月二十二日 閣令 第八八號)

興亞鍊成所規程左ノ通定ム

興亞鍊成所規程

第一條 興亞鍊成所ノ所生ノ定員ハ六十名トス

第二條 興亞鍊成所ノ鍊成期間ハ十三月トス

第三條 興亞鍊成所ノ鍊成ハ訓育、術科教育及學科教

育トシ鍊成綱領ハ興亞院總裁之ヲ定ム

第四條 興亞鍊成所ニ入所スベキ者ハ專門學校卒業程

度以上ノ學力ヲ有シ官衙、學校、會社又ハ團體ノ長

ノ推薦シタル者ノ中ヨリ興亞院總裁之ヲ選定ス

第五條 興亞鍊成所ノ所生ニハ在所中豫算ノ範圍内ニ

於テ食費及修學旅行費ヲ給ス

前項ノ外鍊成ニ必要ナル被服及物品ヲ貸與又ハ給與

スルコトアルベシ

第六條 本規程ニ定ムルモノノ外所生鍊成上必要ナル

事項ハ興亞院總裁ノ認可ヲ經テ所長之ヲ定ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス